

石川高専、創立 50 周年記念碑除幕式を挙行

石川高専は 11 月 5 日、創立 50 周年記念事業の一環として『高専教育之碑』除幕式を行った。除幕式には村本健一郎校長、八田潔教務主事、教育後援会の向田哲也会長、同窓会の新谷隆二会長、学生会会長をはじめ教職員や学生など約 200 名が出席。冒頭の村本校長の挨拶後、来賓及び同校関係者により除幕が行われた(写真)。

記念石碑は黒御影石で、高さ・幅 150 cm、奥行き 30 cm、重さは約 2 t。表側には『夢に向かって磨き 創り 拓く』という言葉とともに、これまでの同校の全ての学科名が彫られ、裏側には同校の沿革・高専教育の意義と、この石碑が創立 50 周年記念事業の一環として建てられた経緯が刻まれている。村本校長の挨拶の概要は次のとおり。

「石川工業高等専門学校は、1965 年 4 月に現在の地に設立され、第 1 回入学式は、機械工学科、電気工学科、土木工学科の 3 学科に 121 名の学生を迎えて行われた。その後土木工学科を環境都市工学科に改組するなど、学科の改組・拡充があり、現在の 5 学科となつた。石碑には、改組前の土木工学科を含めて全ての学科名を彫つてあり、学生として、あるいは教職員として、本校に過ごされた全ての方々に当時を偲んでいただけると思う。次に、石碑の中心には『高専教育之碑』と

彫られている。

これは、我が国で唯一の 5 年一贯の高等教育制度である高専は、高等学校と大学工学系分野の 7 年間で学ぶ専門知識を 5 年間で体系的に身につけることができるという高専教育の特色を銘じたものである。

さらに、一番上に彫られている『夢に向かって磨き 創り 拓く』は本校に学ぶ学生諸君へのメッセージである。学生諸君には、高い理想と将来への夢を持ち続けることを期待する。

そして、その夢の実現に向かって、学識だけでなく知性や人間性も磨き、新しい技術を創り、人類の未来を切り拓いていくよう願っている。創立 50 周年を迎えた今、先輩諸氏が築き上げた本校の信頼と良き伝統を受け継ぐとともに、次の 50 年に向けた新たな発展を創り上げていく機会にしたい」

